

製品名: PI 3-キナーゼ p85 α (リン酸化 Tyr607) ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab05245**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット、その他
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	80kDa

抗原情報

遺伝子名	PIK3R1
別名	PIK3R1; GRB1; Phosphatidylinositol 3-kinase regulatory subunit alpha; PI3-kinase regulatory subunit alpha; PI3K regulatory subunit alpha; PtdIns-3-kinase regulatory subunit alpha; Phosphatidylinositol 3-kinase 85 kDa regulatory subunit alpha; PI3-kinase subunit p85-alpha; PtdIns-3-kinase regulatory subunit p85-alpha
遺伝子 ID	5295.0
SwissProt ID	P27986
免疫原	抗血清は、ヒト PI3 キナーゼ p85- α の Tyr607 リン酸化部位近傍の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 573-622

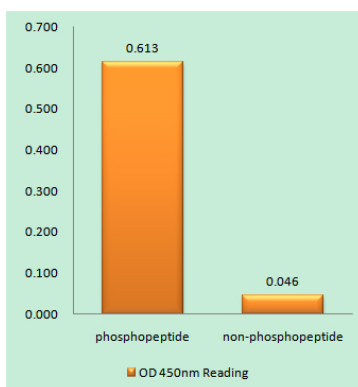
背景

ホスファチジルイノシトール 3-キナーゼは、ホスファチジルイノシトールのイノシトール環の 3'位をリン酸化します。この酵素は、110 kD の触媒サブユニットと、85、55、または 50 kD の調節サブユニットで構成されています。この遺伝子は、85 kD の調節サブユニットをコードしています。ホスファチジルイノシトール 3-キナーゼはインスリンの代謝作用において重要な役割を果たしており、この遺伝子の変異はインスリン抵抗性と関連付けられています。この遺伝子の選択的スプライシングにより、異なるアイソフォームをコードする 4 つの転写バリエーションが生成されます。[RefSeq 提供、2011 年 6 月]、疾患: PIK3R1 の欠陥は重度のインスリン抵抗性の原因となる。、ドメイン: SH3 ドメインは CBLB および HIV-1 Nef への結合を媒介する。、機能: SH2 ドメインを介して活性化 (リン酸化) タンパク質チロシンキナーゼに結合し、アダプターとして機能して p110 触媒ユニットの細胞膜への結合を媒介する。インスリン感受性組織におけるインスリン刺激によるグルコース取り込みおよびグリコーゲン合成の増加に必要である。、PTM: T 細胞において CBLB によってポリユビキチン化される。プロテアソームによる分解は促進しませんが、T 細胞が活性化されると CD28 および CD3Z との結合を阻害します。、類似性:PI3K p85 サブユニット ファミリーに属します。、類似性:1 つの Rho-GAP ドメインを含みます。、類似性:1 つの SH3 ドメインを含みます。、類似性:2 つの SH2 ドメインを含みます。、サブユニット:p110 (触媒) サブユニットと p85 (調節) サブユニットのヘテロ二量体。リン酸化 TOM1L1 と相互作用します。TCR および/または BCR が活性化されると、リン酸化 LIME1 と相互作用します。SOCS7 と相互作用します。RUFY3 と相互作用します (類似性による)。TCR が活性化されると、リン酸化 LAT、LAX1、および TRAT1 と相互作用します。CBLB と相互作用します。HIV-1 Nef と相互作用して、Nef 関連 p21 活性化キナーゼ (PAK) を活性化します。この相互作用は両タンパク質の C 末端に依存し、HIV 産生の増加につながる。HCV NS5A と相互作用する。SH2 ドメインは、in vitro においてリン酸化 INSR の YTHM モチーフと相互作用する。また、in vitro においてチロシンリン酸化 IGF1R とも相互作用する。T 細胞活性化時に CD28 および CD3Z と相互作用する。IRS1 およびリン酸化 IRS4、ならびに NISCH および HCST と相互作用する。、組織特異性: アイソフォーム 2 は骨格筋および脳で発現し、腎臓および心筋でも低レベルで発現する。アイソフォーム 2 とアイソフォーム 4 は骨格筋 (タンパク質レベル) に存在する。、

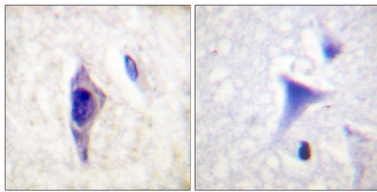
研究分野

血管新生を制御する; 微小管の制御; アクチンダイナミクスの制御; SAPK_JNK; 幹細胞経路; インスリン受容体; ErbB/HER; AMPK; mTOR; B 細胞受容体; 接着結合

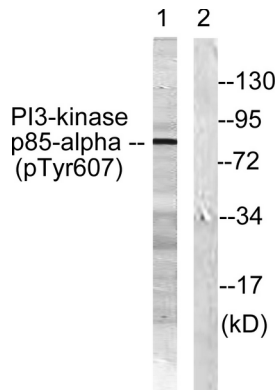
画像データ



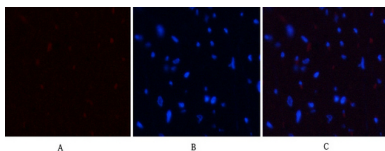
PI3 キナーゼ p85-alpha (リン酸化 Tyr607) 抗体を用いた、リン酸化ペプチド (リン酸化左) および非リン酸化ペプチド (リン酸化右) 免疫原の酵素結合免疫吸着測定法 (リン酸化 ELISA)



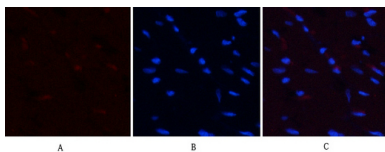
PI3 キナーゼ p85- α (リン酸化 Tyr607) 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト脳の免疫組織化学染色。右の写真はリン酸化ペプチドでブロッキングした状態。



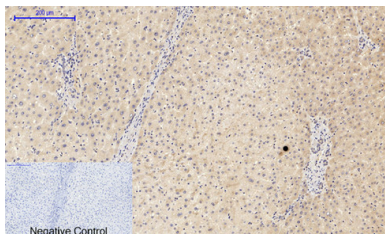
PI3 キナーゼ p85- α (リン酸化 Tyr607) 抗体を用いたラット腎臓ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンはリン酸化ペプチドでブロッキングされている。



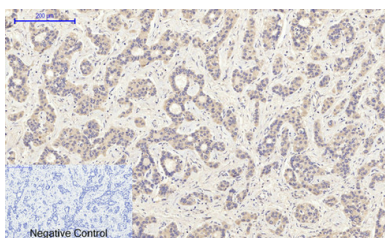
ラット心臓組織の免疫蛍光染色。1, PI 3-キナーゼ p85 α (リン酸化 Tyr607) ポリクローナル抗体 (赤) を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2, Cy3 標識二次抗体を 1:300 に希釈 (室温、50 分)。3, 図 B: DAPI (青) 10 分。図 A: ターゲット。図 B: DAPI。図 C: A+B のマージ。



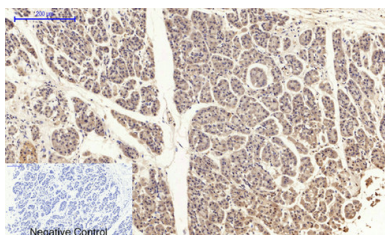
ラット心臓組織の免疫蛍光染色。1, PI 3-キナーゼ p85 α (リン酸化 Tyr607) ポリクローナル抗体 (赤) を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2, Cy3 標識二次抗体を 1:300 に希釈 (室温、50 分)。3, 図 B: DAPI (青) 10 分。図 A: ターゲット。図 B: DAPI。図 C: A+B のマージ。



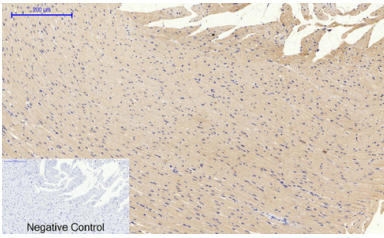
パラフィン包埋ヒト肝組織の免疫組織化学染色。1. PI 3-キナーゼ p85 α (リン酸化 Tyr607) ポリクローナル抗体を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2. クエン酸ナトリウム pH 6.0 を用いて抗体賦活化 (>98°C、20 分) を行った。3. 二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30 分)。ネガティブコントロールとして二次抗体のみを用いた。



パラフィン包埋ヒト肝癌組織の免疫組織化学染色。1. PI 3-キナーゼ p85 α (リン酸化 Tyr607) ポリクローナル抗体を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2. クエン酸ナトリウム pH 6.0 を用いて抗体賦活化 (>98°C、20 分) を行った。3. 二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30 分)。ネガティブコントロールとして二次抗体のみを用いた。



パラフィン包埋ヒト胃癌組織の免疫組織化学染色。1. PI 3-キナーゼ p85 α (リン酸化 Tyr607) ポリクローナル抗体を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2. クエン酸ナトリウム pH 6.0 を用いて抗体賦活化 (>98°C、20 分) を行った。3. 二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30 分)。ネガティブコントロールとして二次抗体のみを用いた。



パラフィン包埋ラット心臓組織の免疫組織化学染色。1. PI 3-キナーゼ p85 α (リン酸化 Tyr607) ポリクローナル抗体を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2. クエン酸ナトリウム pH 6.0 を用いて抗体賦活化 (>98°C、20 分) を行った。3. 二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30 分)。ネガティブコントロールとして二次抗体のみを用いた。